

事新報定價
一年三百六十五日
ハ左ノ如シ
一箇月前金五十錢〇三箇
月全六圓
前金六圓
旅費ヲ直接ニ郵便ニテ送
ノソ送料ヲ由受ク
事新報廣告料前金
號字廿四字詰 一
行ニ付 十二

一 行 五 験	活 字 四 字 誉	一 日 限
一 行	付	十二 錢
一 行	付	十一 錢
一 行	付	十 錢 五 隅

業を重んじて干涉の得策ならざるを悟るにかては、是修例を全般に大に改正して商賈の實際に適せしむるか又は從前廢するか二者その一に決するは左まで日月を要するに非ず到底今日の日本人にて勝手向きを二階にして引窓より出入するが如き新築の家に引移るとは出來難い相談するゆゑに大に模様替して普通の住居と爲すか又は是れまでの舊宅を修繕して永久住居と定むるか其孰れに決するは必ずしも今後三年の思案を要する程の難問題に非ず速に斷行して差支なかる可しと我輩の窮に信する所あり本來事の便宜より云へば新築勿々未だ一度も住居を試みざる其家屋を改築するよりも住み慣れたる家に相當の修繕を加ふるる智者の事にして且今日は世論一般に之を評し、ブルース發起の人々も之に賛成し、政府の筋にても漸く利害を悟りたる様子なれば必ず舊宅の修繕論に決するとならんと思へども色々に差支にて新宅保存の議もあらんか兩様擇々所あし唯古來日本國に住み慣れたる商賈安を妨げされば他に苦難必至と云ふ可し相場所に關係する商人等の利害は始く商業の體面の爲めに就す可し誠に目出度き次第あれども一方より我輩の所見を以てすれば此目出度き有様災は之を避るに道あきも人爲を以て平地に波を起すが如き誠に歎かはしき次第にして當初政府の人に商賈の思想あらんには三五年來の波瀾もあく又隨て今日商賈上の慶事もあかる可き筈なりと我輩は農商務省の處分を贊成すると共に尙ほ今後百般の商政に就て警戒の機意を呈するものなり

（以下略）

明治廿三年九月
時事新報
○海軍公債募集の事
圓約七箇年間に三
とに決したりとのこ
事實に相違したる
と異なりて入目の
百萬足らずの金額
以來募集したる海
は決して餘裕ある
ざる上に海防の事
されば當局者たる
とを欲して其出處
を爲すには海軍大
ざるは申迄もなく
經濟事情を考察せ
募集の事を大藏大
藏大臣は時の非あ
げたるやに聞けり
されども彼れ是れ
蓋し其邊に起因し
○倫敦の労働社會
を聞くに同月間二
至て僅にして先づ
労働社會は一體に
も近來稍や減少の
を企てしものその
その七十九は六月
内十三は綿の製造
建築五は生鐵及び
他は雜業に從事せ
員の總數二十一萬
のものは四千二百
されば前後兩月間
ども機械製造に屬
その給料の如きも
労働者は少しくその
物業は隨分可なり
して労働者の休業せ
して此の職に從事
不繁昌の方あれど
労業は格段に繁忙
りの姿鋼鐵等も隨
しもの總數の僅に
比して稻や景氣よ
均の上にありしど
候に付御取消相成候
明治廿三年九月
時事新報
○法官會同の準備